



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第277号

2016年7月25日

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

不十分な市の発達障がい児施策

八千代市の発達障がい児の保護者の方々から「突然小学校で発達障がいを指摘され混乱した」、「発達障がいを早期に見ることができる取り組みをしてほしい」という要望が出されています。発達障がいのある子どもには、早期から発達段階に応じた一貫した支援が必要です。とりわけ治療をするうえでも自立するためにも早期発見が重要です。

早期発見できる機会が乳幼児健診です。八千代市の乳幼児健診年齢は、①3～6か月児、②9～11か月児、③1歳6か月児、④3歳児の計4回です。これは後述する進んだ自治体と比べると不十分です。市内小・中学校には、特別な支援を必要とする児童・生徒を指導し支援する特別支援教育コーディネーターが指名されていますが、クラス担任などの教職員で専任ではありません。特別支援教育支援員も市内の小学校22校、中学校5校合わせて27校で25名しかいません。しかも非常勤です。

健診もれ、発見もれ、対応もれをなくす

発達障がい児の先進的施策を進める滋賀県大津市を、福祉常任委員会の一員として堀口明子議員は先月視察しました。大津市では1974年に「発達障がい児健診もれ、発見もれ、対応もれをなくす」という理念のもと、乳幼児健診に精神発達診断を導入しました。これは「大津方式」と呼ばれています。

大津市の乳幼児健診は、①4か月児、②10か月児、③1歳9か月児、④2歳6か月児、⑤3歳6か月児で、八千代市より1回多く行われます。なお、4か月児健診以外は、医師と発達相談員が共同で診る集団健診で行い発見率が格段に上がったと言います。

昨年4月開所した大津市子ども発達相談センターの目的には「福祉・保健・教育が連携」「途切れることのない支援体制の構築」が位置付けられています。職員は15人（正職員5人、嘱託9人、臨時1人）です。各専門分野との連携が取れるように小児科医師、保健師、発達相談員、言語相談員、家庭相談員、作業療法士、元小学校教諭、元幼稚園教諭などが配置されています。

早期に発見し切れ目ない支援を

日本共産党は、発達障がいを早期に見出し切れ目なく支援することは、障がい者が社会の中でよりよく安心して生活するために必要なことと考えています。発達障がい者支援法は、県に「身近な場所で必要な支援」を行うことを求めています。全国に87か所しかない発達障がい者支援センターの増設を求めます。



八千代市では当面、児童発達支援センターの充実、乳幼児4歳児健診の実施、小・中学校配置の特別支援教育コーディネーターの専任化、特別支援教育支援員の増員と常勤化などを求め、発達障がい児施策の充実をはかります。